

1. 調査報告概要表

作成日 平成 22年3月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4072300553
法人名	医療法人 城戸医院
事業所名	グループホーム けやき
所在地 (電話番号)	福岡県八女市室岡字中道1099-2 (電 話) 0943-24-6161

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 22年2月 8日	評価確定日	平成22年3月16日

【情報提供票より】(平成22年1月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 10人, 非常勤 10人, 常勤換算	7.95人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	入居日より半年間までは半額
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	8 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.5 歳	最低 70 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八女公立総合病院 筑後市立病院 大石歯科医院 吉田歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成17年5月開設の“グループホームけやき”は、木のぬくもりが感じられる造りで、家庭的で落ち着いた雰囲気漂う中、1階のデイサービスからは賑やかな歌声が聞こえている。ホーム開設時より、認知症ケアに真正面より取り組み、ご利用者の行動及び心理症状は、ケアによって改善することを認識し、ご家族と連携しながら一人ひとりの支援方法を検討されてきた。ご本人の趣味を活かし生きがいを持って、その人らしい生活が送れるよう職員は日々取り組みを行ない、生活リハビリや動物介在療法、学習療法など取り入れ、ご利用者に楽しんで頂いている。ご利用者の力を発揮して頂けるような支援も行なわれ、時には職員に指示をされたり、力仕事を進んで担当して下さるなど、お互いに協力しながら日々の生活を送ってられる。法人として、職員の育成にも力を入れた取り組みが行なわれており、代表である院長自ら職員の指導に関わり、助言を行なっておられる。昨年末(21年末)、進学や結婚の理由で職員の退職が続いたが、ご利用者は退職理由を理解して下さり、混乱はみられなかった。新任職員の育成と共に、全職員力を合わせて、地域との交流に向けた行事を企画していきたくと前向きに取り組んでいるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回は5回目の外部評価である。前回の外部評価では改善点の指摘がなく、継続した取り組みが行なわれてきた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回5回目の自己評価ではあるが、初めて受けるという職員もおられ、勉強会の時間を使って、施設長とリーダーから職員に、自己評価と外部評価についての説明が行なわれた。職員間で話し合いが行なわれ、“ご利用者ができることをもっと増やしては”という意見が多く、危ないからと職員が行なっていた布団干しなど、ご利用者と一緒に行う取り組みが開始された。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2カ月に1回、ご家族や市の担当者、町内会長、民生委員、地域包括支援センターの職員等に参加して頂き、会議を開催している。職員の入退職状況や行事報告、韓国施設見学の報告などが行なわれ、意見交換が行なわれている。市の担当者からは、認知症サポーター養成講座やSOSネットワーク等を紹介して頂き、委員の方々から地域行事を教えて頂いている。運営に関するご意見を頂き、サービス向上に活かす取り組みが行なわれている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 「けやき新聞」にて、ホームの行事や新任職員の紹介が行なわれている。運営推進会議では、ご利用者の日頃の状況を映した写真を投影しながら、報告を行なっている。ご家族の来訪時に、リーダーが主となって、ご家族個々に合わせた報告を行なっている。ホーム内に意見箱が設置されているが、ケアの関する要望など直接意見を言うて下さることが多く、頂いたご意見は職員間で検討し情報共有を図っている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区の運動会や市主催のお祭りなど、ご利用者と一緒に見学に出かけている。ボランティアや高校生の職場体験の受け入れも行なっている。ホーム主催のけやき祭には沢山の方が参加して下さり、顔なじみになった子供たちがホームに遊びに来たり、畑で採れた野菜や果物の差し入れをして頂ける関係ができています。頂いた“びわ”でびわケーキを作り、お返しをしたこともある。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に現事務長と現施設長が話し合い「第二の我が家のホーム」「生きがいのあるホーム」「開かれたホーム」「家族とひとつになれるホーム」の4つの理念が掲げられた。「開かれたホーム」の中には、地域やご家族との交流を通し、開かれた風通しのよいホームを目指すという意味が込められており、地域密着型サービスの役割を反映した独自の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ご家族と連携しながら一人ひとりの支援方法を検討し、ご本人の趣味を活かしなが生きがいを持って、その人らしい生活が送れるよう職員は取り組んでいる。また、地域に開かれたホームを目指し、地域との交流に力を入れた取り組みが行なわれている。朝のミーティング時には、理念の唱和が行なわれ、月1回のミーティングでは、理念に添ったケアが実践できているか話し合いが行なわれている。	○	21年11月以降、退職による職員の交代が続いた。新任職員への指導が随時開始され、理念に基づき日々の業務の中で特に注意することなどの説明が行なわれている段階である。全員が理念に基づいたケアが実践できるよう、職員全員で協力しながら指導を行なっていきたいと考えられている。新任職員の育成に向けた取り組みに期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進委員の方や、地元から地域行事の情報を頂き、地区の運動会や市主催のお祭りなどへ、ご利用者と一緒に出かけている。ボランティアや高校生の職場体験の受け入れも行なっている。ホーム主催のけやき祭では、地域のお宅にお知らせの紙をポストインしたり、回覧板で回して頂き、沢山の方に参加して頂いた。畑で採れた野菜や果物の差し入れをして下さったり、顔なじみになった子供たちがホームに遊びに来るなどの関係ができています。	○	新任職員含め職員全員で力を合わせて、地域の方々が気軽にホームを訪れて頂けるような行事を、更に企画していきたいと考えられている。理念に掲げられている“開かれたホーム”を目指し、更なる取り組みに期待していきたい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	勉強会の時間を使って、施設長とリーダーから、職員に外部評価の説明が行なわれた。職員間で話し合いが行なわれ、リーダーが意見を集約し、施設長のアドバイスを受けながら一つにまとめられた。“ご利用者ができることをもって増やしては”という意見が多く、危ないからと職員が行なっていた布団干しなど、ご利用者と一緒に取る取り組みが開始された。自己評価に対して、新人職員からの意見は少なかったが、早く業務を覚えたいという意欲は感じられた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、ご家族や市の担当者、町内会長、民生委員、地域包括支援センターの職員等に参加して頂き、会議を開催している。外部評価の結果や、ホームの取り組み、ヒヤリハット、今後の予定等報告している。職員の入退職や、研修受講状況の報告も合わせて行なわれている。委員の方々から地域行事を教えてください、ホーム発行の新聞に対し「専門用語の記載はわかりにくい」など、職員が気づかない貴重なご意見を頂き、早速改善が行なわれた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表が医師会の担当理事を務められており、施設長が八女地区グループホーム連絡協議会の役員をされていたこともあり、市の担当者とは顔なじみの関係となっている。市の担当者に運営推進会議で“けやき新聞”をお渡ししている。市の窓口を訪問したり、電話で相談する機会も多い。ホームの行事にも参加して下さるなど、日頃からご協力を頂いている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に詳しい施設長が、職員を対象に勉強会を開き、制度についての説明が行なわれた。法人としても、地域包括支援センターの方に来て頂き、ホームの職員も参加して勉強会を行なっている。入居後、1名のご利用者が制度を利用している。ご利用者やご家族からの相談に応じる体制が整っており、家族会で制度に関する説明が行なわれた。	○	キャラバンメイト連絡会へ参加し、ホームでサポーター研修が行なわれている。研修の機会を活用して、より多くの方々に制度の紹介を行なうと共に、勉強会に参加できていない新任職員への説明も行なっていきたいと考えられている。今後の取り組みに期待していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者の暮らしぶりや新任職員の紹介は、月1回の「けやき新聞」にて紹介されている。運営推進会議では、写真を投影しご利用者の日頃の状況が紹介されている。医療連携体制もあり、看護師よりご家族に報告が行なわれている。ご家族の来訪時に、リーダーが主となって、ご家族個々に合わせた報告を行なっている。金銭管理はホームにおられる事務の方が1万円を上限として預かり、収支報告書を渡し説明が行なわれている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの要望で、ご利用者の日頃の様子をビデオで上映したり、施設内のデイを利用している友人と会えるよう、日中デイルームで過ごして頂くなど個別の対応が取られている。ホーム内に意見箱が設置されているが、直接意見を言うて下さることが多く、頂いたご意見は運営推進会議で報告を行ない、運営に活かす取り組みが行なわれている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限にするために、法人として有給休暇の取得推進や時間外労働の排除に取り組まれている。年1回のストレスについての研修も行なわれている。“職員間コミュニケーション係り”を中心に、職員間の食事会等が企画され、親睦を図る取り組みも行なわれている。21年11月以降、進学や結婚の理由で職員の退職が続いたが、ご利用者は退職理由を理解して下さり、混乱はみられなかった。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	事務長は、職員の採用にあたっては、性別や年齢、出自などを理由に採用対象から外すことはなく、本人の仕事への意欲や人柄、ご利用者に対する接し方などを重視して採用している。一人ひとりの趣味や興味を活かし、職員の能力が發揮できる係りを担当してもらっている。法人として、職員に対し資格習得を積極的に支援し、シフトの調整が行なわれている。代表である院長は、職員1人ひとりに常に目標を持つようにと指導されており、職員ミーティングや勉強会にも自ら積極的に参加されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の人権について、地域包括支援センターの方に講義をして頂いた。虐待や人権について内部研修も行なわれており、全体会議において、人権擁護委員による職員教育や研修が実施されている。新任職員に対し、入職時研修が行なわれ、日々の業務の中で人権を尊重したケアについて指導が行なわれている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院長、管理者は質の向上のためには、職員の育成が不可欠であると考えられている。認知症介護実践者研修や八女市連絡協議会主催の研修会等、外部の研修にも積極的に職員を参加させている。法人として目標を作成し、職員同士が協力してプロジェクトに取り組んでいる。定期的に職員がプロジェクトの進捗状況を院長に報告し、院長の指導、助言を受けている。職員が自己評価を行ないリーダーが面接し、個別の目標を設定している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、同業者との交流・連携の必要性を認識しており、職員は八女地区事業所連絡協議会に加盟し、毎月1回のブロック研修や勉強会に参加している。同業者との情報交換や意見交換が行なわれており、法人内他事業所との合同勉強会も開催され、職員間での親睦会も図られている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設長がご入居前にご自宅等を訪問し、ホームの見学や体験利用をして頂いている。ご利用者やご家族から不安な事など丁寧にお話を伺い、ご入居されてからも1週間は、毎日ご家族にホームでのご本人の様子をお伝えしている。職員が他のご利用者とお話できるような場を設け、自己紹介して頂いている。ホームの生活に徐々に馴染めるように、職員はゆっくり時間をかけて対応するなどの配慮も行なわれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や裁縫が得意なご利用者から、調理方法や味付け、落し蓋の使い方、マチ針の使い方など教えて頂いている。職員と同じように、毎日モップがけや台拭き、洗濯物干しなどをして下さるご利用者の方もおられ、職員の手助けをして下さっている。独身の職員に結婚相手の心配をして下さったり、「子供は早くつくりなさい」、「お金はあるの？」と心から心配して下さい、時には職員の手を撫でて褒めて下さるなど、ご利用者に支えられる事が多いと職員は感じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者が、ご利用者とご家族からホームでどのように暮らして行きたいかなどの意向を伺い、計画の原案を作成している。原案を基に、主治医や調理師等の意見も伺い、ミーティングで話し合いが行なわれている。新しいご利用者は入居して1ヶ月以内に担当者会議を行ない、新たな要望などについてご利用者、ご家族に確認が行なわれている。意向の把握が困難なご利用者についても、表情や行動を観察し、日頃の様子から思いを汲み取る努力を行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族から、今までの生活歴や大切にされてきた事、要望などを伺い、ご利用者の趣味や生きがいとされていることを大切に、ニーズ欄、目標に記載している。“地域で暮らす”という視点も盛り込まれており、「ご利用者自身の計画」という視点に立ち、ご利用者、ご家族にもわかりやすい表現の記載となっている。全職員のケアの方法や留意点を統一するために、具体的な手順も記載されている。担当者会議には、かかりつけ医である母体病院の院長も参加し、計画に対する助言を頂いている。	○	「介護計画」はご利用者本位の視点で作成されているが、短期目標については長期目標と類似した内容で、大括りな表現の記載となっている。モニタリングの時に評価が具体的に行え、次の目標設定、ケアの見直しに活かせるものと思われる。更なる計画の充実に向けた取り組みに期待していきたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティングで、計画作成担当者を中心に、ご利用者の表情の変化や体調の変化等について、職員の気付きや意見を基に話し合いが行なわれている。短期目標の期間に応じて、ご利用者、ご家族、必要な関係者に参加して頂き、計画の見直しのための担当者会議が行なわれているが、状態に変化が生じた場合は、設定した時期の前でも見直しが行なわれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が病院であり医療連携体制も取れており、夜間も看護師に相談できる体制となっている。ご利用者の体調に変化が見られた時は、主治医である院長がすぐにかかりつけて下さり、入院が必要な場合は、迅速に病院を紹介して下さっている。年末年始、法事等への外出・外泊支援や個別の外出希望にも可能な限り対応されている。併設するデイサービスを利用したり、ご利用者に合わせ、公文式学習療法や母体病院の理学療法士による個別リハビリなどの導入も行なわれている。		
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居前に、ご利用者、ご家族の希望をお聞きし、希望の医療機関を受診して頂いている。いつでも相談や対応ができるということで、母体の城戸医院をかかりつけ医にされる方も多く、かかりつけ医・協力医療機関ともに相談できる体制は出来ている。担当者会議には、かかりつけ医である院長も出席され、ご利用者、ご家族と十分に話し合いが行なわれている。ご利用者の健康状態について、医療連携の担当看護師が、随時、院長に報告を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の在り方については、ご入居時に“重度化した場合における対応に関わる指針”を基に、医師や医療機関との連携体制や看取りに関する考え方の説明が行なわれ、同意書が交わされている。主治医を含めた担当者会議にて、ご利用者、ご家族の意向を確認している。医療連携体制により、定期的な看護師の訪問や夜間の対応も可能で、医師との連絡が密に取られている。重度化した場合には、話し合いのもとホームで対応する予定であるが、まだ、ホームでの看取りを行ったことはない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしない為の取り組みの一貫として、電話の対応の際などご利用者の前では、お名前を出さずに対応している。ミーティング等で話し合い、勤務の中でもスタッフ同志気づいた場合はお互いに注意し合っている。入浴や排泄の誘導の際は、自尊心や羞恥心に配慮して、小声でさりげなく声かけを行っている。記録物については鍵の掛かる場所に保管し、メモ類はシュレッターにかけ個人情報の保護に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れは決めているが、時間を区切る様なプログラムにせず、ご利用者一人ひとりのペースに合わせた対応を行なっている。その日の体調や気分に応じて、朝もゆっくり休んで頂いたり、食事や入浴もご本人のお気持ちを大切に支援している。併設のデイケアにて、地域の方達とカラオケやレクリエーションを一緒に楽しまれたり、月2回、2ヶ所の理美容サービスを取り入れ、ご利用者には自由に選択して頂き、身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、食材の準備は併設のデイケアの調理師がされているが、ホームの畑で収穫した根菜類や、地域の方からの旬の野菜を頂いた際は、職員はご利用者にメニューなど相談している。調理の下ごしらえから味付けまで、ご利用者は職員に指導しつつ準備をされる等お力を発揮されている。食事制限や咀嚼困難のご利用者には、他のご利用者とは変わらない様に器や盛り付けなど工夫している。ご利用者の希望をお聞きし、日曜日はパン食にしたり、外食に出かけるなどの支援も行なわれている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は午後より毎日4時頃までとある程度決めているが、入浴のお好きなご利用者は毎日でも利用可能としている。入浴を好まれない方には、無理強いにはしていない。ただ年中“風邪を引いている”からと入浴されないご利用者には、入浴剤を利用し「良い匂い」ですなと声かけを工夫している。菖蒲湯や柚子湯など、季節を感じて頂ける様な取り組みも行われ、不安や恐怖心をお持ちのご利用者には、職員と一緒に寄り添うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や習慣、生活歴をご利用者のご家族にお聞きし、生花の先生をされていたご利用者に、玄関やフロアにお花を活けて頂いたり、裁縫の得意な方にはクッションの手直しをお願いしている。職員と共に洗濯物干しから、たたみ、収納などをされたり、職員が掃除機をかけていると、コードが危険だからと持って下さったり、ゴミ出しも積極的に手伝われている。楽しみ事として、月1回のドックセラピーに参加しデイケアの方達との交流も楽しまれている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者は、八女地区の方が多く馴染みの場所も多い。八女伝統会館や近くのお茶村、地域の祭り(あかり、ちゃんぼん)へ職員と共に出かけている。暖かい日はホームの周辺を散歩されたり、近くの店に食べたいおやつを買いに出かけるなどしている。ご家族の面会の折に、ご家族と共に外出される方もおられる。	○	昨年、ご利用者にアンケートを取り、ご希望の多かった甘味処にパフェを食べに、ご利用者全員で出かけ大変喜ばれた。今年もアンケートを行いたいと考えられている。外出を楽しみにされているご利用者もおられることから、更なる取り組みに期待していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の都合により、夜9時～朝6時半まで施錠しているが日中は施錠していない。毎日数回外出されるご利用者もおられるが、職員は制止するようなことはせず、後方より同行して見守りしている。また見守り担当者を決め、席をはずす際は他の職員に伝達して席を立つ等、ご利用者の安全に気をつけている。ご利用者が一人で外出された時の事を考え、地域の警察にお願いしたり、徘徊SOSに入会されている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	デイサービスと合同で、年1回消防署の方に指導を頂き、通報訓練や避難訓練、消火活動等を実施している。夜間想定避難訓練にはご利用者も参加され、実践的な訓練が行なわれた。月1回の自主訓練も実施している。訓練前には、ご近所に非常ベルの件で挨拶回りを行ない協力を頂いている。備品として缶詰、水、パン、紙おむつ等を準備され、災害発生時に備えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士、看護師による管理指導の基、納豆、クロレラなど食べられないご利用者には栄養補助食を提供している。刺身や生ものを食べれないご利用者には、果物や缶詰などでコンポートを作ったり、ホームで採れた野菜を温野菜にするなどで代替されている。マヨネーズの大好きなご利用者や、おやつのお好きな方は主治医に相談し、月1回の体重測定や血液検査により、運動量の増減を試みている。食事量、飲水量についても記録を行い把握している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は大きな摺りガラスの引戸で、広々としている。ご利用者の安全性を考慮され木製の椅子が設置されている。1階のフロアではめだかが飼育されており、2階のフロアはご利用者と職員による手作り作品やお雛様が飾られ、それぞれに工夫された癒しの空間が設けられている。テーブルやソファはご利用者が過ごし易い様に配置されていて、換気は空気清浄機で調節している。BGMが心地よく、ご利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が居心地良く過ごせるように、ご本人、ご家族と相談し、ご自宅で使い慣れたベットやタンス、仏壇、鏡台、テレビなど持ち込まれている。お部屋づくりも和室風に畳みにされていたり、カーペットを敷いて洋風の雰囲気にしたりと、入居後も自宅で過ごされていた様子と変わらないような居室作りをされている。		